

ブリーダー放棄

65頭の
小型犬

報告2

この2頭を入院させた病院の先生も、動物愛護センターからチワワを引き取ってくれていました。65頭の中で一番病気を持っているだろうと思われる犬を選んで下さったのです。今では病院のアイドルで、受付の後ろで寝ています。看護師さんみんな、「とっても可愛いんですよ」と目を細めています。

後ろ足は関節炎で変形、角膜潰瘍、膀胱炎で膀胱結石摘出、臍ヘルニアの手術、乳腺腫瘍（女性のこぶし大ほどの大きさ）手術に耐えてくれました。年齢は10才以上、歯も全部ありません。舌がペロンと口元から出ています。でも先生は、「これも愛嬌」と言って笑われました。



ぽんず
Ponzu



↑ 枕より小さいぽんずちゃん

新聞記事より

子犬子猫の販売規制の法律成立 ペット捨てない社会目指せ

ペット販売会社、ジョーカーの店舗で、他の犬と一緒に広いスペースで展示される子犬＝東京都町田市生後間もない犬と猫の販売禁止を柱とする改正動物愛護管理法が成立した。「小さい方がかわいい」という消費者志向の一方で、早くに親から離すとかみ癖などの問題行動が出て、飼育放棄につながりやすいとの指摘があるためだ。全国で殺処分される犬猫は年間20万匹以上。今回の改正にはその数を少しでも減らしたいという意図がある。

◆ 一生、面倒を見る

「かわいい」。東京都内の繁華街にあるペット店で、若い女性が生後40日の子猫を指さしていた。業界団体「全国ペット協会」は既に生後45日未満の犬猫の販売を自主規制している。だが、こうした「会員以外の店」が生後すぐに店頭に出すケースは少なくない。子犬や子猫は、親やきょうだいと過ごす中で社会性を身に付けるとされる。麻布大（相模原市）の菊

水健史教授らが日米の犬計約2万匹の行動を解析した研究では、生後50日未満で親と離れた犬は（1）知らない犬や人を怖がる（2）音や光に過敏に反応（3）触ると嫌がる一などの行動が多く見られた。改正法は生後8週に当たる56日以下の犬猫を繁殖業者が販売することを禁止。ただ、業界からは「56日という数字は科学的根拠が乏しい」との声もあり、施行後3年は45日、その後は49日と段階的に延長し、5年以内に56日にする。来年秋までに施行予定だ。施行を待たずに独自の取り組みをする店もある。首都圏で店舗展開するペット販売会社、ジョーカー（東京都）は生後50日から60日までは客に引き渡さない。東京都町田市の店を訪ねると、広い展示スペースで5匹の子犬がじゃれあっていた。遊びながら他の犬との付き合い方を学ばせ、トイレなどのしつけもして販売する。瓜生真砂巳専務は「飼い主にも『命を一生、面倒を見る』と意識してほしいんです」と話す。

（産経ニュース 2012.9.25）